



大木場 宏(おおこば ひろし)さん

大正4年(1915年)、旧川辺村神楽に生まれる。県立川辺中学校(現・川辺高校)卒業後、民間企業に勤務。その後召集令状が届き陸軍に入隊。終戦後、故郷に戻り川辺町役場に勤務。御年104歳。今年9月の敬老会にも、しっかり出席。

# インタビュー

## 4つの時代を生きて

# 大木場 宏さん

## 大正4年生まれ104歳

大正・昭和・平成・令和の4つの時代を生きる大木場さんは川辺町神楽にお住まいです。変化の著しいこの時代、古きを知る長老は、今と未来に何を思うのでしょうか。

(聞き手 鮫島・日置・内園)

——4つの時代を生きてこられた大木場さんですが、長い人生で驚かれたことやご苦労されたことは何でしょうか。

**大木場** 戦争では召集令状により陸軍に入隊し、満州に配属されました。終戦間際のソ連侵攻により、多くの仲間がシベリアに抑留されたことを覚えて

います。

戦後は川辺町役場の建設課に勤めました。当時は砂利道が多く、道に空いた穴などの対応に苦労しました。

——戦後の勝目村と川辺町の合併、平成19年の3町合併と、2度の合併を経験されました。合併をどう思われますか。

**大木場** 勝目村との合併の時、私の周りでは大きな変化はありませんでしたが、勝目村ではいろいろ議論があったように聞いています。

3町合併についても暮らしに大きな変化はありません。

庁舎を建て直す話を聞きましたが、今あるものを大切にしたいと思っています。

——大木場さんが生きてこられた1世紀は、女性の社会進出が進んだ1世紀

でした。このことについて何か思いはあるでしょうか。

**大木場** 川辺町時代、知り合いの女性が町議になりましたが、何も思いませんでした。(女性が議員になるのは当然だというニュアンスでした。)

——平成27年に、地元神殿小学校が閉校となりました。どう思われましたか。

**大木場** 学校が無くなったことよりも、子どもがどんどん減っていることを悲しく思います。

——最後に、市議会に一言お願いします。

**大木場** 管理する人のいない畑が増え、道を覆う草がたくさんあります。市議会の力で解決されることを望みます。



## 編集後記

市民体育大会の一コマ。長縄跳びの回数を子どもたちが競います。どの地区の子どもたちも1位を目指して練習を積んできました。

競技中、首位の記録が90回越えとのアナウンス。1位を目指して跳び続ける子どもたちに、残り30秒でミスが出ます。「もう今から飛んでも1位にならない」子どもたちの誰もがそれをわかっていました。それでも彼らは一切手を抜かず、残された30秒を一生懸命に跳び続けました。

私はその30秒に胸を打たれました。子どもたちの真つすぐな心の、なんと尊いことか。子どもたちのジャンプに、南九州市の未来の飛躍を確信した市民体育大会でした。

(日置)

## ▼広報編集委員会

委員長 鮫島 信行  
副委員長 日置 友幸  
委員 米満 孝二  
大久保太智  
内園知恵子  
松久保正毅